



ANNUAL REPORT 2016



2016 年度事業報告書

発行日 2017年6月1日
発行人 神崎清一

公益財団法人 日本YMCA同盟

〒160-0003 東京都新宿区本塩町7

電話：03(5367)6640 FAX：03(5367)6641

E-mail：info@ymcajapan.org

Homepage：http://www.ymcajapan.org/





「あなた方の光を人々の前に輝かしなさい。」 YMCAブランドの再生と革新

日本YMCA同盟は、地域でそれぞれに輝いているYMCAの宝が、「升の下におかれたともしび」のようではなく、「燭台の上に置く」ように、全ての人を照らすことを願い、マタイによる福音書5章16節を年間の基本聖句とし、全国のYMCAと共にYMCAブランドを輝かし、弱くされた人々に、メッセージを届けられるように、オールジャパンYMCA革新後の姿に向けて中期計画の推進に取り組んだ。

そして、互いに認め合い高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることを、ビジョンとしたブランドコンセプトを発表した。

全国のYMCAでは保育園やアフタースクール開設など、チャイルドケア事業に力を入れ、児童虐待や「いじめ」、子どもの貧困、保育所待機児童の問題など子育てを巡る課題の解決に向けて取り組みを強化した。特に、いじめをなくすことを共に考える「ピンクシャツデー」キャンペーンを、今年も全国規模で実施し、すべての人々が健やかに成長できる場を広げることに努めた。さらに、留学生の日本語能力の習得、日本文化体験から進学や就職を支援する日本語教育などの諸事業の推進、経営指標を設けての課題の自己点検と経営分析入力システム構築など、全国協働を強化した。

そして地震で大きな被害を受け、今なお小さくされた方々がおられる熊本では、熊本YMCAが指定管理者である益城町や御船町の施設を避難所として運営し、阿蘇キャンプや地域センターなどの各施設においても、全国のYMCAやワイズメンズクラブ、さらに他団体や諸機関とも協働して大きな働きをなし、今も支援を継続している。またアジアのYMCAをはじめ海外からも大きな支援が寄せられ、これまで培われてきた関係が意義



深いものであることを再認識した。100周年を迎えた国際青少年センター東山荘は、全国の方々からお寄せいただいた多大な募金によって新本館が建設され、また御殿場市をはじめとした地域との協働事業も進められ、青少年センターとしての役割がますます期待されている。

その東山荘では、「地球市民育成プロジェクト」夏期研修には海外と日本のユース、「全国学生YMCA夏期ゼミナール」に学生とシニアが、「日本YMCA大会」では半数以上のユースを含む300名を超える方々が集い、ユース世代のスタッフ、ボランティア、学生の胎動を示す一年となった。

本年もYMCAのすべての事業、被災地復興支援、障がい者支援、青少年育成ならびに東山荘などに対して、全国のYMCAの会員、ワイズメンズクラブ、企業や諸団体の皆様からご寄附や協賛をはじめ多大なるご支援をいただき感謝の一年であった。

最後に、2009年より8年間にわたり日本YMCA同盟総主事として役割を担ってこられた島田茂第14代総主事の尊きお働きに深く感謝申し上げたい。

日本YMCA同盟
会長

正野隆士

日本YMCA同盟
総主事（代表理事）

神崎清一

日本YMCA同盟事業報告書 2016

目次 Contents

	「あなた方の光を人々の前に輝かしなさい。」	1
	YMCAブランドの再生と革新	
	I “オールジャパンYMCA”の革新に向けて	4
	—中期計画最終年の確実な実行—	
	II 国際協力事業の協働強化	6
	III 地域社会との協働	8
	—パブリック・サポートの獲得—	
	IV 学生YMCA運動支援の強化	10
	V 国際青少年センター東山荘の新生に向けて	12
	VI 全国YMCAの運営強化	14

ファンドレイジング	15
日本YMCA研究所	19
日本のYMCAの現勢	20
日本YMCA同盟組織・関係団体	21
日本YMCA中期計画2020	24
2017年度日本YMCA同盟事業方針・計画	30

ANNUAL REPORT 2016



I “オールジャパンYMCA”の革新に向けて —中期計画最終年の確実な実行—

1 YMCA全事業のリブランディングと ミッションの明確化

「互いを認め合い、高め合う“ポジティブネット”のある豊かな社会を創る」をビジョンとして掲げる「YMCAブランドコンセプト」を6月の第5回同盟協議会にて制定した。YMCAが願う世の中の姿を明確にし、そのために社会に提供できるYMCAの「宝=価値」を磨き、価値を広く効果的に伝えることによって、より多くの方から共感、支援、賛同を得ることを目指していく。コンセプトを表出するロゴ・スローガンについて総主事会議・戦略会議で集中協議し、刷新することを決議した（発表は2017年6月予定）。



YMCAブランドコンセプト

2 スタッフ研修の効果的な実施と 環境整備

ステップI~IIIの他、各種専門職のための専門職管理者研修、北米、ミャンマーなどの海外研修を行った。次世代の日本YMCA運動のリーダーシップ像を、スタッフ、ボランティア、ユースリーダーにおいて明らかにすること、全国で行うすべての研修を日本YMCA研究所にて捉え直し、ブランドコンセプトに照らし合わせてカリキュラムを整え体系化を進めていくこととした。

3 広報の強化

2月22日は全国のYMCAがピンクシャッターの取組みを行い、いじめに遭う子どもに寄り添い、まず大人が子どもを守る姿勢、いじめを許さない姿勢を示す活動として、今年は文部科学省より後援を得るほか、関係団体や企業等から多くの賛同を得ることができた。

広報誌である機関誌“THE YMCA”（発行部数14,000部）では、引き続きユース世代に届くメッセージ、紙面作りを工夫した。ブランディングの観点から、YMCAが行う広報の知覚品質について専門家を入れて検証し、今後の改善すべき課題を共有した。



東京・大阪・広島の3カ所で開催されたブランドコンセプト発表と分かち合いを実施

4 全国YMCAの財政の 健全化・ガバナンス強化

加盟YMCAの会則をすべて点検するほか、法令順守のための諸整備について支援協力を行った。また、タスクチームを設置して「経営分析入力プログラム」を開発し、全国YMCAの経営指標の一部を統一化することによって財務状況の把握が速やかに可能となった。特に困難な状況にあるYMCA、総主事・スタッフ不在のYMCAは個別の運営に関して必要に応じて助言を行うほか、近隣YMCAが支援する仕組み作りを整えた。



ユースとシニア、それぞれの立場から社会とYMCAの未来像を描いた。(日本YMCA大会)

5 日本YMCA運動としての ガバナンス強化

第19回日本YMCA大会を「ユースエンパワメントを加速する—私たちの活動が社会を変える—」をテーマに開催し、311名の参加者を得た。今回はユース世代の委員・ボランティア・スタッフが主体となって企画・運営し、参加者の半数が35歳以下のユース世代となった。「ドラマサークル」を導入したオープニングとクロージング、ジャズ演奏を取り入れ幅広い世代に向けてメッセージが語られた聖日礼拝、ユースとシニアの真剣討議の場となったグループディスカッションなど斬新なアイデアを活かした大会となり、オールジャパンYMCAでさらに社会を変えていくことを確認する機会となった。

次期中期計画策定委員会を設置し、今期中期計画の成果を踏まえ革新を進める「日本YMCA中期計画2020（2017-2020年度）」を策定した。



世代を超え互いを理解するために、討議を重ねた。(日本YMCA大会)



II 国際協力事業の協働強化

1 ユースエンパワーメントの推進強化

ユース世代の会員・スタッフから選ばれた、世界YMCA同盟「チェンジ・エージェント」6名、アジア・太平洋YMCA同盟「ユース・レプス」3名が任期最終年である2年目を迎えた。メンバーは、世界YMCA同盟、アジア・太平洋YMCA同盟が掲げるユースエンパワーメントの方向性と足並みを揃えて活動を進め、10月8日～10日に行われた「第19回日本YMCA大会」では運営の中心となって活躍し、ユースが自ら考え行動する「ユースエンパワーメント」を実践する機会を持った。



第19回日本YMCA大会の運営委員・実行委員はユースが中心、ユースエンパワーメントを実践した

2 近隣のアジアのYMCAとの協働

隔年で行われる日本と台湾のYMCAの総主事・スタッフによる連絡委員会を実施し、YMCA運動と事業についての情報交換と連携の機会についての話し合いが持たれた。また、全国より寄せられた国際協力募金によって、アジア・太平洋YMCA同盟の運営強化対象となるカンボジアYMCA、東ティモールYMCA、モンゴルYMCAによる地域活動を支援した。一方国内では、2016年4月に発生した熊本地震に際して、アジアを中心に海外から支援をいただいた。これに対し、現地の様子の英文レポート*をFacebook等によって国外にも発信した。
*英訳にあたってはCWS (Church World Service) にご協力いただいた。



日本と台湾のスタッフが台湾の日月潭に集まり、会議と親交の時間を持った。

3 海外被災地等支援 (YMCA国際協力募金による支援)

ネパールの地震(2015年4月)被災地では現地YMCAを通じた被災児童への制服や学用品等の支援、二つの小学校の再建支援を継続した。フィリピンでは台風(2013年11月)の被災地で第3回のワークキャンプ*を実施し、10名の参加者がフィリピンの青年と共に現地YMCAのキャンプ場の施設修繕作業や農村でのホームステイを通して村の人々や子どもたちとの交流を深めた。2003年からパキスタンのラホールYMCAと協働で運営する小学校では、アフガニスタン難民の子ども約80名の基礎教育、給食や健康チェック、制服の提供や環境の改善に取り組んだ。

*主催：茨城YMCA
*各募金についてはP.15を参照ください。



YMCAの小学校で学ぶパキスタンに逃れたアフガニスタン難民の子ども。多くがテント暮らしをしている



ネパールの再建した学校の教室に集まった生徒たち

4 アジア・太平洋地域の平和づくり

平和づくりの土台を築くため、身近な難民の状況を知る機会として、会員向け機関紙にて『日本に暮らす難民』を特集した。また、パレスチナの平和を願って行われている「オリーブの木キャンペーン」を全国に呼びかけ87本分の募金を東エルサレムYMCAに送り、パレスチナで行われるオリーブ収穫プログラムにも1名を派遣した。インドネシア・ジャワ島の震災(2006年)支援として開始したキャンプから形を変えて継続されているピースキャンプ*が、9月に日本とインドネシア、台湾のユースによって岡山で実施され、国際協力募金より支援した。

*主催：YMCAせとうち



機関紙「THE YMCA」10月号。全国のYMCAやドイツYMCAの取り組みを通して、難民の方々の置かれた現状や生活を知る機会を提供した

5 国際協力事業への会員の参画を促進

YMCA国際協力募金を国際理解教育の場、平和構築への取り組みとして位置づけ、全国のYMCAで、より多くの会員や学生、ボランティア、子どもを含めたメンバーが積極的に国際協力にかかわれるよう、プレゼンテーションや担当者向けのハンドブックを作成した。1月には全国YMCA国際事業担当者会を実施し、情報共有と意見交換を行った。また、海外派遣プログラムを通じた経験と学びの機会を広く提供するために、小規模YMCAのユース3名の派遣を国際協力募金より支援した。



国際協力募金のリーフレットやポスター、募金箱等が全国の募金活動で用いられた

6 多文化な背景を持つ子ども達の支援

加盟YMCAによる多文化な背景を持つ子ども達の支援について現状を把握するためのアンケートを実施、重要な課題と認識するものの活動事例は数例に留まった。1月の全国YMCA国際事業担当者会では事例を共有し、誰もが個人の持つ背景や思想によって差別されず大切にされる社会を創っていくための、人やリソースを活かした仕組み作りについて協議された。また加盟YMCAが実施した多文化共生への新たな取り組み(海外にルーツを持つユースによるスピーチコンテスト)に対し、今後の活動につなげられることを期待し、国際協力募金より運営を支援した。



担当者会ではグループに分かれてディスカッションし、今後の取り組みのアイデアを出しあった

III 地域社会との協働 —パブリック・サポートの獲得—

1 加盟YMCAが取り組んでいるファン ドレイジングの支援

「YMCAユースファンド」により「ユースボランティア・リーダー育成」「困難にあるユースの育成」のために3YMCAへの指定寄附を受け、加盟YMCAのファンド獲得をサポートした。また、FCSCによるチャリティーランも新たに滋賀YMCAと熊本YMCAが加わるなど、全国YMCAでのファンドレイジングの知識や経験の共有が拡大している。



今年度より新たに加わった滋賀YMCA国際チャリティーラン。参加者もそれぞれのスタイルで楽しむ。

2 FCSC（国際賛助会）の活動強化

2016年度は通常のFCSCの活動による障がい児プログラムへの支援に加え、4月に起きた熊本震災支援に対し、これまでに障がい児プログラムへの支援をいただいた企業・団体から多くの支援と社員ボランティア派遣をいただくことができた。さらに震災支援をきっかけにして新規企業から熊本以外のYMCAの活動にも支援をいただける関係が生まれた。



熊本地震被災地支援キャンプで、企業から支援を受けたタープの下で食事をする子どもたち。このような機会が子どもたちの心を癒やす。

3 ワイズメンズクラブとの協働支援

全国に143あるワイズメンズクラブおよび、東日本区・西日本区、全国レベルで、様々なYMCAプログラムを通した子どもやユースの育成、コミュニティ活動における協働が行われている。特にユースエンパワメントに力を入れ、YMCAユースとワイズメンズクラブメンバーの交流の機会も増えている。2016年はワイズメンズクラブが東西に分かれてから20年を迎え、その記念に第2回ワイズメンズクラブ東西日本区交流会が行われた。370名の参加者が新たにオープンした東山荘を利用した。



第2回ワイズメンズクラブ東西日本区交流会に集まったワイズメンズクラブメンバー。

4 東日本大震災被災支援事業

2011年度から5年間継続された全国協働による募金活動が2015年度末で終了した後も、宮古、仙台、石巻では盛岡YMCAと仙台YMCAが中心となって、地域住民や子ども達へのプログラムの実施や復興活動が行われている。また、福島県内に住む子ども達のための放射能に配慮した屋内・野外でのプログラムの実施や、全国各地への広域避難者の支援も加盟YMCAによって継続されている。

熊本地震被災支援事業

4月に発生した熊本地震により、益城町総合体育館と御船町スポーツセンターの指定管理者であった熊本YMCAを中心に両施設で避難所運営を行い、阿蘇YMCAもボランティアセンターとして機能した。全国のYMCAも運営協力のためにスタッフとボランティア派遣を行った。また避難者の仮設住宅への転居後も、益城町と御船町の仮設団地の「地域支え合いセンター」の運営委託を受け、熊本YMCAのプログラムやボランティア活動との連携を活かしながら住民の支援を継続している。



熊本YMCAによる避難所運営での活動。大規模避難所でのマネジメント力に行政や他団体からも高い評価を得た。

IV 学生YMCA運動支援の強化

1 各個大学YMCAの運営支援と強化

九州大学YMCAが一般財団法人格を取得した。また、新寮建設のためにインターネット募金で指定寄附（寮再建寄附）を呼びかけ、全国の学生寮再建の動きに拍車をかけた。

2014年度から始まった学生代表者会議には27名が参集した。各活動の現状共有や課題解決について協議する場として定着し、学生自身の問題意識やアイデアが、全国協力を促進している。



「一麦寮」と命名された九州大学YMCAの新しい寮

2 共働スタッフを中心とする幅広い世代のリーダーシップ構築

学生と支援者をつなぎ、自ら成長するリーダーシップとして、共働スタッフや世界YMCA同盟チェンジ・エージェントの働きが大きく注目されている。学生時代の学びと経験を卒業後も活かし、若者を取り巻く社会変化を多角的に捉え直す視点は、学生YMCA夏期ゼミナールや日本YMCA大会等のプログラム企画・運営において発揮された。



大会運営・実行委員として活躍した学Y出身のチェンジ・エージェント（左端）と、全国のYMCAユースたち

3 地域の都市YMCA・ワイズメンズクラブ・教会とのネットワーク促進

YMCAインターナショナル・チャリティーランやピンクシャツデーをはじめとした、地域・全国での学生YMCAと都市YMCAの交流が進んでいる。機関誌THE YMCAでの連載「ユースの声」や学生寮の特集では、学生たちの「今」を発信した。

一人ひとりが聖書と向き合い、クリスチャンリーダーシップを育てる場として、聖書研究は学生YMCA運動の精神的支柱である。教会の牧師や大学チャプレンを招き聖書について聴く時間は、学生がキリスト教と出会い、社会の課題やいかに生きるべきかを問う機会となっている。



ピンク色のTシャツを着ていじめのない世界への取り組みをアピールする学生たち

4 学生YMCAで培われた思想から平和への使命を発信

世界中に広がる排外主義や差別と暴力の時代に、より低いところで弱くされている人々と共に生きることは、学生YMCA運動の原点である。インドスタディキャンプや日韓大学YMCA交流、パレスチナオリーブ収穫等のプログラムに学生やシニア（OBOG）を派遣し、平和への使命を発信しエキュメニカル運動に連帯した。

学生YMCAシニアが中心となり、憲法学者を招いて自民党改憲草案の問題について学ぶ企画が行われ、現代社会の問題に小さくとも警鐘を鳴らす働きとなった。



日本・韓国における差別の問題について語り合う日韓学生たち

5 2018年学生YMCA130周年に向けた中期計画の立案

学生自身の鋭い問題意識をテーマに、第44回全国学生YMCA夏期ゼミナール（9月9日～12日）に、全国20大学より学生・シニアら82名が参集した。社会学者の土井隆義氏を招き、若者の生きづらさの内実とその社会的な背景への考察から、人間関係の歪みや今を生きる若者の息苦しさが浮き彫りにされた。異質な他者と出会うことが、自らの生きづらさを解放させるというメッセージは、多くの学生に共感を呼んだ。

学生部委員会では、これからの運動の展望を示すために「学生YMCA中期計画（2017-2020年）」を立案・策定した。聖書研究・YMCA理解・ユースエンパワメントのためのネットワーク構築を大きな柱とし、2018年の学生YMCA130周年を見据えた具体的な計画の実行が期待される。



インドスタディキャンプにて、20年以上親交を深めている現地受け入れ責任者のスレッシュ氏と



東山荘日本館での最後の開催となった夏期ゼミナール

V 国際青少年センター YMCA東山荘の 新生に向けて

1 東山荘の経営強化・利用者拡大 による稼働率の向上

2016年度の利用者は33,140名で予算上の人数は140名上回った。昨年度34,967名から1,827名減少した。新本館建築工事による休館日。中学、高校、中国関連旅行社の利用者減による。都内・全国の研修関連エージェント2社と業務提携を結ぶことができた。

今年も福島県下の子どものためのキャンプを2キャンプ、震災支援従事者の心のリフレッシュプログラムを他団体との協働により開催した。

新本館の落成を記念し森のレストランを本格的に営業を開始、一般の方にも開放して871名の利用があった。



新しくオープンした食堂「森のレストラン」

2 100周年事業の推進

2016年10月9日、第19回日本YMCA大会の中日に、関田寛雄牧師の司式により100周年記念礼拝を持ち御殿場市長をはじめ416名の参加者があった。

第2次募金の募金期間の2年間を終えた。募金目標の1億円は2年間で達成することができ100,756,732円の募金を1,101名の方々から頂戴した。新本館の建設および6号館のエレベーターの再設置や、正門とフェンス、荘内道路、旧本館跡地の駐車場の整備を行うことができた。また、職員により3・4号館と2浴室の内装工事を行った。



献堂式では関田寛雄先生より力強いメッセージをいただいた



献堂式には全国からYMCA関係者、寄附者など大勢の方が出席した

3 「東山路観光協議会」との協働による 地域の活性化

東山路観光協議会の事務局を引き受けると共に御殿場市東山二の岡まちづくり懇話会の副座長を務めている。御殿場市と市民協働型まちづくり事業として3月11日に東山荘を会場に防災都市御殿場づくり体験の日ぼうさいたいけんオープンハウスを行うことが出来た。

「第9回静岡県景観賞優秀賞」を建物と自然の景観が見事に調和している点が評価され受賞することが出来た。また、かねてより建設中の東山青少年広場が完成し運営依頼があり次年度4月から御殿場市教育委員会より運営委託することが市議会にて決まった。



東山荘を会場にぼうさいたいけんオープンハウスを実施



静岡県景観賞最優秀賞を受賞

VI 全国YMCAの運営強化

1 加盟YMCAの諸規則・規程等とガバナンス強化のための支援協力

加盟退除・組織検討委員会のもと、加盟YMCAの会則諸規程の点検を行い、整備に向けたフォローアップを行った。同盟に提出された会則等の改正案について2016年度末の同盟常議員会から順次承認を行い、2017年度内に全国YMCAの会則諸規程が整うように取り組んでいく。またガバナンス上課題を抱える加盟YMCAに対しては都度、個別に対応を行った。2017年度も各YMCAのガバナンス強化を継続して支援して方針である。

2 中期計画推進のための体制強化

全国総務担当者会の方針に基づき、中期計画推進のために、3つのタスクを設置した。そのうちの一つの「経営指標タスク」は、各YMCAの経営分析と課題の早期発見と対処を目的として「経営分析入力プログラム Version 1.5」を制作し、過去3年間の経営分析の集計結果を全国総主事・総務担当者にて共有した。2017年度も中期計画推進の原動力となる各YMCAの経営基盤強化に継続して取り組んでいく。

3 「全国YMCA総務ハンドブック」の改訂

総務担当者会のもとに設置されたもうひとつの「総務ハンドブック改訂タスク」は、現「総務ハンドブック」の中で最新化や修正が必要な内容について改訂作業を行い、暫定版を全国総主事・総務担当者にて共有した。主な改訂内容は、「法人運営、人事研修・人事制度、財務、助成金・補助金」等である。他の章・節についても随時見直しと改訂作業を行っていく予定である。

4 主事退職金中央基金・職員年金基金の運用支援と制度対応

退職金制度を維持し、退職職員への年金の安定支給と共に現職員が安心して働けるよう1.5%の運用益確保を基準に、資金運用委員会を年10回開催し、検討と対応を行った。また主事退職金中央基金・職員年金基金運営委員会のもとに、今後3年間の退職金・年金制度の在り方を考えるために「制度検討委員会」を設置し、2017年度に取り組んでいく。



ファンドレイジング

国際協力募金

YMCA国際協力募金は、ひとりひとりの命が大切にされる平和な社会の実現を願って、全国で実施されている。募金活動に関わる子どもや大人が、募金によって支援する人々やその暮らし、社会の課題に触れることで、より主体的に行動する機会となるように、リーフレット、ポスター、パネル、国際事業を紹介した動画、子ども向けのスライドを作成・配布した。また支援先から寄せられた声や報告を発信した。



支援するカンボジアのチャイルドケアの子ども達

海外被災地支援募金等

ネパール地震（2015年）被災地支援は、被災児童の奨学金や学校の再建等を継続した。次年度以降にワークキャンプの実施を検討している。フィリピン台風（2013年）被災地支援は4年目を迎え、2月に茨城YMCA主催で現地での4度目のワークキャンプを実施した。主にシリアからの難民の移動の経路地となるギリシャのテサロニキでは、世界YMCA同盟が行う子どものための活動等を支援している。オリーブの植樹によりパレスチナを支援するキャンペーンでは苗木87本分の募金を送った。



テサロニキYMCA（ギリシャ）での難民の子ども達のケアプログラム

2016年度国際協力募金収支報告

(2017年3月31日)

【収入】

1. 2015年度国際協力募金	7,229,991円
2. ツール負担金	107,451円
収入合計	7,337,442円

【支出】

1. 国内外のユース育成 (海外・研修・会議他派遣)	550,000円
2. 難民・在日外国人への支援 (アフガニスタン難民・パレスチナ難民)	2,605,696円
3. アジア地域のYMCAを通じた支援 (青少年育成、貧困者支援他)	1,823,000円
4. 多文化共生支援	100,000円
5. 啓発・広報事業 (リーフレット・パネル・DVD他作成)	1,732,596円
6. 事務費（送金手数料等）	23,106円
支出合計	6,834,398円
次期繰越	503,044円

2016年度海外被災地等支援指定募金収支報告

(2017年3月31日)

【収入】

1. 2015年度繰越	15,451,923円
<内訳>	
a. ネパール地震被災地支援募金	6,488,498円
b. ネパール指定募金(神戸市社会福祉協議会より)	7,383,888円
c. フィリピン台風被災地支援募金	614,184円
d. パレスチナ難民支援・オリーブキャンペーン	285,300円
e. 世界難民支援	680,053円
2. 募金収入	805,780円
a. パレスチナ難民支援・オリーブキャンペーン	805,780円
収入合計	16,257,703円

【支出】

a. ネパール地震被災地支援募金	1,118,748円
b. ネパール指定募金(神戸市社会福祉協議会)	4,628,672円
c. フィリピン台風被災地支援	185,332円
d. 世界難民支援	680,053円
e. パレスチナ難民支援・オリーブキャンペーン(現地送金)	499,080円
支出合計	7,111,885円

【次期繰越】

a. ネパール地震被災地支援募金	5,369,750円
b. ネパール指定募金(神戸市社会福祉協議会)	2,755,216円
c. フィリピン台風被災地支援募金	428,852円
d. パレスチナ難民支援・オリーブキャンペーン	592,000円
次期繰越合計	9,145,818円

東日本大震災被災支援事業

東日本大震災発生以降継続してきた、全国協働としての募金活動は2015年度末をもって終了となったが、2016年度も被災された方々を覚えての募金が寄せられた。

2013年に北カルフォルニア日本文化コミュニティセンター（JCCCNC）から寄せられた、中長期にわたるプログラム指定募金299,000USドルは、2016年度も全国の被災者・避難者の親子リフレッシュキャンプ、被災地復興支援に関わる団体のスタッフの心のケアプログラム実施のために継続して用いられた。

①YMCA青少年救援・復興募金収支報告

【収入】

2015年度繰越	3,152,220円
2016年度募金収入	398,925円
収入合計	3,551,145円

【支出】

第9回募金管理委員会運営費	29,000円
盛岡YMCA宮古ボランティアセンター支援(指定)	60,000円
支出合計	89,000円

②プログラム指定募金（JCCCNCからの支援）

【収入】

2015年度繰越	10,491,642円
震災支援者の心のケアプログラム 分担金	4,995,000円
2016年度利息収入	97円
収入合計	15,486,739円

【支出】

親子リフレッシュキャンプ支援	801,093円
震災ボランティアスタッフの心のケアプログラム	3,918,035円
支出合計	4,719,128円

熊本地震被災支援事業

2016年4月の熊本地震発生直後から、全国のYMCA・ワイズメンズクラブを中心に支援活動が開始された。熊本YMCAの行う「益城町総合運動公園」「御船町スポーツセンター」での避難所運営や「阿蘇YMCAボランティアセンター」等での活動のために、また自らも被災しながら地域のために活動する熊本YMCAを支えるために、国内外から募金が寄せられた。

10月末の避難所閉所後も、仮設団地の方々の支援や、子どもの心のケアプログラム・キャンプ実施等のために募金活動を継続している。

①YMCA青少年救援・復興募金収支報告

【収入】

2016年度募金収入	10,119,469円
2016年度利息収入	45円
収入合計	10,119,514円

【支出】

プログラム費（支援スタッフ派遣、備品購入 他）	9,786,920円
調査・視察費	114,792円
会議費	57,560円
広報費	13,824円
事務諸経費	21,010円
支出合計	9,994,106円

②被災YMCA支援募金

【収入】

2016年度募金収入	16,286,483円
2016年度利息収入	20円
収入合計	16,286,503円

【支出】

熊本YMCA支援	16,203,933円
事務諸経費	1,580円
支出合計	16,205,513円

国際賛助会 (FCSC)

CCP（障がい児プログラム Challenged Children Program）支援のためのYMCAインターナショナル・チャリティーランに滋賀、熊本の両YMCAが加わり、2015年度の18カ所から20カ所に増加した。2つの大会とも初回開催時に地元との良好な関係が構築されており地域から継続開催が望まれている。

FCSCとしては既存のスポンサー企業・団体とのつながりをYMCAの特定のプログラムに限定することなくマルチチャンネル化を推進して関係強化を図っている。さらに12年間FCSC会長として活動して頂いたニック・マッセー氏が退任し（メンバーとして継続）、金子みどり氏が新会長に就任したことに伴い、新たに中期計画を策定して、①FCSC ブランディング強化検討 ②ファンドレイジングの取り組み推進 ③新規メンバー獲得 ④イベント企画／マネジメント ⑤FCSCの広報活動のそれぞれのテーマにFCSCのボードメンバーを担当として割り振り、あらためて積極的な活動を開始する。

【収入】

寄附収入	25,758,870円
(1) コーポレートスポンサー	23,454,870円
(2) 個人	2,304,000円
インターナショナル・チャリティーラン2016	9,237,346円
その他	15,116円
前年度より繰越	13,905,578円
収入合計	48,916,910円

【支出】

全国YMCA障がい児プログラムへ	25,411,137円
(1) CCP支援	11,105,000円
(2) 特定プログラムへ	14,306,137円
18YMCAへ インターナショナル・チャリティーラン協賛金	8,648,506円
インターナショナル・チャリティーラン 経費	1,196,046円
その他 経費	450,426円
日本YMCA同盟へ事務手数料として	1,289,966円
支出合計	36,996,081円
来年度への繰越	11,920,829円

ユースファンド

2016年度ユースファンドは、第6期となる「YMCA地球市民育成プロジェクト」への支援、及び指定寄附を通して「ユースボランティア・リーダー育成」「困難にあるユースの育成」等への支援を行った。

「YMCA地球市民育成プロジェクト」では、一年間の研修に参加した国内参加者29名、並びに夏期研修に参加した海外YMCAのユース14名（中国、韓国、台湾、香港、カンボジア、東ティモール）、チューター3名（研修生をサポートする、過去の地球市民認証生）を支援した。地球市民の「世話人」として支援を継続されている62名、1団体をはじめとする寄附者の方々には、ニュースレター第17号（6月8日発行）、及び第18号（12月16日発行）を通して、「2016年度YMCA地球市民育成プロジェクト」実施の告知と報告を行い、継続的な寄附に加えて新たな寄附も得ることができた。

また、全国の各YMCAで実施されているユース育成プログラムには、3YMCA（仙台、横浜、松山）に対する指定寄附が寄せられた。

【収入】

2015年度繰越	8,981,487円
2015年度募金収入	3,870,000円
(1) YMCA地球市民育成プロジェクト 指定寄附	3,212,500円
(2) YMCA指定寄附	410,000円
(3) プログラム指定寄附	105,500円
(4) 一般寄附	142,000円
2016年度利息収入	85円
収入合計	12,851,572円

【支出】

YMCA地球市民育成プロジェクト支援	4,317,872円
ユース育成支援（YMCA指定）	399,500円
ユース育成支援（プログラム指定）	2,000,001円
運営費	446,080円
支出合計	7,163,453円

日本YMCA研究所

日本宝くじ協会

全国YMCAの地域奉仕活動や各種イベント開催を通じて青少年プログラムの円滑実施、地域サービス充実のための集会用テント、及び青少年を対象とした野外教育プログラムのための宿泊用テントに対して一般財団法人日本宝くじ協会から総額9,000,000円の助成を受けた。集会用テントは全国14YMCA27拠点に48張、宿泊用テントは全国10YMCA19拠点に70張、計118張が新たに配置された。各YMCAの地域センター、キャンプ場、保育園や幼稚園から、テントを活用したプログラムを通しての地域社会との連携の強まり、交流の活性化等が報告されている。

【収入】

助成金収入（本体事業費）	9,000,000円
助成金収入（消費税分）	720,000円
自己財源収入（消費税分）	63,515円
収入合計	9,783,515円

【支出】

集会用テント 48張	5,108,000円
宿泊用テント 70張	3,950,810円
消費税	724,705円
支出合計	9,783,515円



日本宝くじ協会からの助成により、全国のYMCAで集会用テント・宿泊用テントを活用した公益事業を実施

ワイズメンズクラブ国際協会(東日本区・西日本区)

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区・西日本区より、日本YMCA同盟主催または全国規模で実施されているユース育成を目的としたプログラムに、総額200万円のご支援をいただいた。また、2016年4月に発生した熊本地震では多くの募金をいただいた。その他、東山荘100年募金、東日本大震災被災学生への奨学金支援、東日本地区YMCAのチャイルドケア事業への絵本寄贈、YMCAインターナショナル・チャリティラン、その他に加盟YMCAによる多くのプログラムにもご支援いただいた。

【収入】

ワイズメンズクラブ国際協会 東日本区	1,000,000円
ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区	1,000,000円
合計	2,000,000円

【支出】

第19回日本YMCA大会	600,000円
第22回インドスタディキャンプ	250,000円
YMCA地球市民育成プロジェクト	250,000円
第47回全国YMCAリーダー研修会	400,000円
第44回学生YMCA全国夏季ゼミナール	250,000円
中日本地区YMCAグローバル教育研修会	250,000円
合計	2,000,000円



全国YMCAリーダー研修会

研修

日本YMCA スタッフ研修ステップⅡ

期 間：2016年9月20日（火）～12月3日（土）75日間
場 所：日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘／在日本韓国YMCA
参加者：9YMCAより14名

日本YMCA スタッフ研修ステップⅢ

期 間：2017年1月17日（火）～20日（金）3泊4日
場 所：日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘
参加者：6YMCAより9名

専門職管理者研修

期 間：2016年7月25日（月）～29日（金）4泊5日
場 所：日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘
参加者：7MCAより19名

スタッフ海外研修

1. スタッフ米国研修（長期）

期 間：2017年3月8日（水）～4月9日（日）
場 所：米国（シリコンバレー、シカゴ、ヒューストン）
参加者：1YMCAより1名

2. スタッフアジア研修ミャンマースタディーツアー

期 間：2016年10月21日（金）～28日（金）
場 所：ミャンマー（ヤンゴン、タウンゲー、ネピドー、マンダレー）
参加者：3YMCAより3名

3. アジア・太平洋YMCA同盟主催第34回アドバンスコース

期 間：2016年11月7日（月）～12月4日（日）
場 所：香港（香港中華YMCA Wu Kai Sha Youth Village）
参加者：1YMCAより1名

資格

主事資格認定

2016年6月1日付けで5YMCAより7名を、YMCA主事にふさわしい者として認定した。

日本のYMCAの現勢

2016年6月1日

組織	
世界の国・地域YMCA	119
日本加盟・準加盟都市YMCA	36 (同盟含む)
上記YMCAが運営している法人・団体 (カッコ内は登記にもとづく)	
・財団法人	27 (公益財団法人：20、一般財団法人：7)
・学校法人	14
・社会福祉法人	11
・NPO法人	8
・任意団体	3
学生YMCA	37 (公益財団：3、一般財団：1)

メンバー	
プログラム会員数 (野外活動、教育事業の年間登録会員)	138,882名
賛助会員 (個人) (YMCAの目的に賛同し、会費を支払い支えて下さった方)	8,624名
賛助会員 (法人)	494法人

ボランティア・職員	
職員・教員 (常勤)	2,872名
職員・教員 (非常勤)	3,805名
ポリシーボランティア (方針決定に関わるボランティア)	1,357名
ユースボランティア (野外活動、青少年活動、障がい児、国際などのプログラムで子どもたちを指導するボランティア)	6,734名

施設	
YMCA地域活動センター等	217
予備校	2
学習クラス	12
日本語学校・教室	21
語学学校・外国語教室	50
専門学校	
福祉系学科	11
医療系学科	4
社会体育系学科	6
語学・ビジネス系学科	6
ホテル・観光系学科	7
その他の学科	7
チャイルドケア	
幼稚園	15
認可保育園	41
チャイルドケア	53
アフタースクール	54
オルタナティブ教育	
フリースペース・スクール	5
単位制高校・技能連携校	9
インターナショナルスクール等	9

高齢者ケア	
老人ホーム・グループホーム	9
デイサービスセンター	15
在宅介護支援センター (相談業務)	11
在宅介護・看護センター	4
介護予防プログラム	31
発達支援	
軽度発達障がい児対応 (LD児他)	63
障がい児プログラム (野外・プール・アート)	46
ウエルネスセンター	63
キャンプ・野外活動	109
キャンプ場・キャンプ施設	26
研修センター	12
ホテル・貸会議室・ユースホステル	21
国際活動	66
賛助会	18
地域活動・ボランティアセンター	130
生涯学習・文化教室・聖書研究	96
その他	22

(同盟含む)

日本YMCA同盟組織・関係団体

2016年度諸委員名簿

◎は長を示します

1 理事ならびに監事、評議員、常議員

理事 (7名)

笈川光郎、長尾ひろみ、中道基夫、神崎清一
島田 茂 (代表理事)、堀口廣司 (執行理事)、
横山由利亜 (執行理事)

監事 (2名)

古田和彦、平野昭宏

評議員 (12名)

◎正野隆士、田口 努、青山鉄兵、有住 航、
大森佐和、岡戸良子、川本龍資、田中博之、
田原 績、黄 崇子、岡 成也、中村 隆

常議員 (24名)

◎正野隆士、竹佐古真希、田口 努、青山鉄兵、
浅羽俊一郎、有住 航、岩坂二規、笈川光郎、
大森佐和、岡戸良子、川本龍資、桑田隆明、
田中俊夫、田中博之、田原 績、長尾ひろみ、
中道基夫、廣瀬頼子、黄 崇子、岡 成也、
神崎清一、末岡祥弘、中村 隆、廣田光司

2 運営委員会

A. 東山荘運営委員会 (5名)

◎桑田隆明、池谷洋子、野田 徹、渡辺 巖、
井口 延

B. 主事退職金中央基金・職員年金基金運営委員会 (7名)

◎田中博之、久保田貞視、勝田正佳、徳久俊彦、
末岡祥弘、堀尾 仁、島田 茂

3 常置委員会

A. 学生部委員会 (5名)

◎竹佐古真希、黄 崇子、板野靖雄、村瀬義史、
秋葉聡志

B. 国内協力委員会 (5名)

◎笈川光郎、川本龍資、末岡祥弘、田口 努、
岡 成也

C. 国際協力委員会 (4名)

◎長尾ひろみ、浅羽俊一郎、荒井浩元、神崎清一

D. 加盟退除・組織検討委員会 (5名)

◎桑田隆明、大森佐和、笈川光郎、廣田光司、
塩澤達俊

E. 研究所委員会 (5名)

◎廣田光司、棟方信彦、西原良信、佐竹 博、
山佐亜津子

4 特別委員会

A. 主事退職金中央基金・職員年金基金資金運用委員 (6名)

◎田中博之、久保田貞視、勝田正佳、徳久俊彦、
藪田安晴、齋藤金義

B. 東山荘100年募金・東山荘新生合同委員会 (6名)

◎正野隆士、笈川光郎、桑田隆明、田中博之、
井口 延、松田誠一

C. 主事資格認定委員会 (5名)

◎金 秀男、井之上芳雄、太田直宏、松田誠一、
三枝 隆

D. 主事論文審査委員 (9名)

松岡信之、原田宗彦、青山鉄兵、上篠直美、
湯本治之、濱塚有史、秋葉聡志、久保誠治、
板崎淑子

E. 中期計画推進委員会 (6名)

◎島田 茂、正野隆士、中道基夫、黄 崇子、
神崎清一、末岡祥弘

F. 次期中期計画策定委員会 (8名)

◎中道基夫、黄 崇子、岩坂二規、神崎清一、
末岡祥弘、田口 努、菅谷 淳、塩澤達俊

G. 日本YMCA大会運営委員会 (3名)

◎浅羽俊一郎、濱塚有史、三枝 隆

H. 表彰委員会 (3名)

◎桑田隆明、竹佐古真希、金 秀男

5 定例委員会

A. ユース委員会 (4名)

濱塚有史、黒澤伸一郎、廣瀬頼子、永岡美咲

B. ジェンダー委員会 (2名)

岡戸良子、鍛冶田千文

C. ミッション委員会 (2名)

中道基夫、澤村雅史

国際賛助会 (FCSC) メンバー 2016

名誉会長： オーストラリア大使 H.E Mr. Bruce Miller
- Ambassador of Australia

会長： Ms. Midori Kaneko

会員： Mr. Nick Masee, Mr. Marco Crivelli

Mr. Mark Cutler, Mr. Lance Lee

Mr. Brian Nelson, Mr. Roland Thompson

Mr. Pierre Thomelin, Ms. Emiko Tokunaga

Mr. Toshiaki Yokozawa

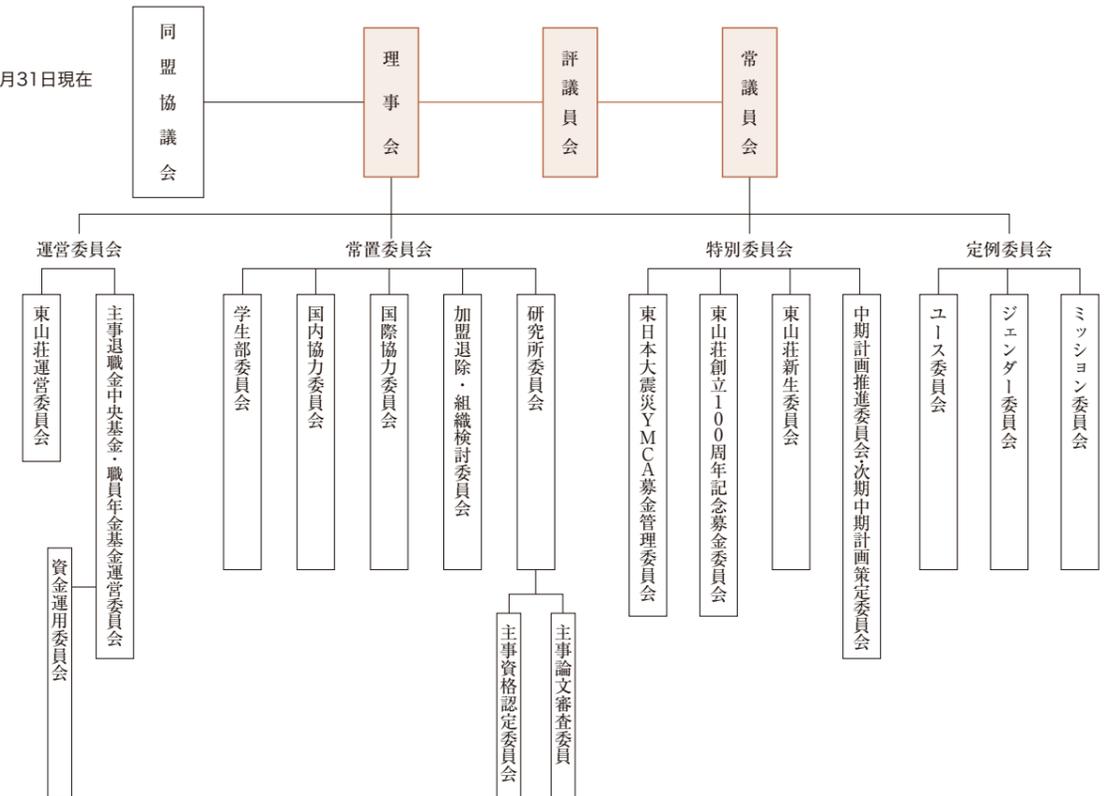
関係・友好諸団体

- ・アジア・太平洋YMCA同盟
- ・世界YMCA同盟
- ・世界学生キリスト教連盟
- ・公益財団法人 日本YWCA
- ・日本キリスト教協議会
- ・公益財団法人 日本レクリエーション協会
- ・公益財団法人 日本キャンプ協会
- ・一般財団法人 協力隊を育てる会
- ・認定NPO法人 開発教育協会
- ・ECPAT/ストップ子ども買春の会

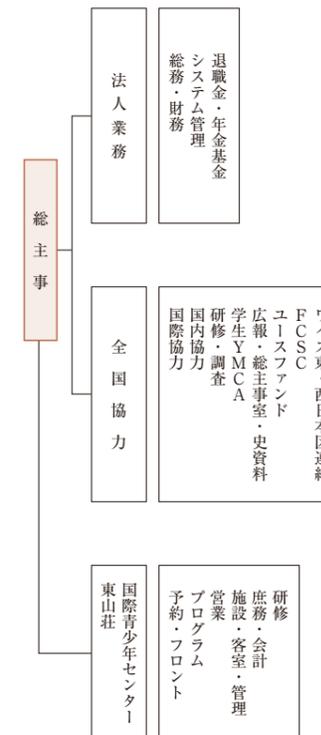
2016年度組織・業務組織・職員体制

組織

2017年3月31日現在



業務組織



職員体制

2016年7月1日現在

部 門		氏 名		
		主 務 者	職 員	嘱託・パート
全 般		総主事	島田 茂	
全国協力	国内協力	主任主事	横山由利亜	山田紀久美
		主任主事補佐	有田征彦	
	国際協力	主任主事	山根一毅	北詰佳子 市来小百合
	学生 Y M C A	主任主事	横山由利亜	森 小百合
	広報・総主事室	主任主事	山根一毅	
		主任主事補佐	真鍋 泉	
法人業務	研究所	所長	光永尚生	滝口敦子 横山明子 杉野歌子
	FCSC			関 伸夫 小野寺みさき 室伏徹郎
	全般	事務局長	大江 浩	
	総務			濱口妙子 小野寺みさき
	財務全般			波多尚子 小野寺みさき
	退職金・年金・互助会事務局			波多尚子
	人事・労務			濱口妙子
システム管理			山田紀久美	
庶務			濱口妙子	
ユースファンド		主任主事補佐	真鍋 泉	
国際青少年センター 東山荘	全般	所長	堀口廣司	
		副所長	光永尚生	
	フロント			横山明子 眞田真由美 横山 幹
	ナイトフロント			滝口敦子 遠藤 舞 藤澤幸伸 津坂博美 宮澤晃司
	予約			鈴木貴子 横山明子 沼田光隆
	営業企画			沼田光隆
	プログラム			白鳥裕之 堤雄一郎 吉澤良尚
	施設			盛岡美貴 山田 仁 藤田英一 内海信吾 吹田哲雄
	客室			勝又由佳里 他パート5名
	庶務・労務			眞田真由美
	会計・募金管理			野木千賀世
	広報・震災関連			杉野歌子

※勝俣多賀子…休職中

YMCAブランドの革新による胎動から躍進へ 日本YMCA中期計画2020

はじめに

現代のYMCAの課題

日本のYMCAは、創立以来、青少年活動の先駆的な役割を果たし、YMCAブランドを維持してきましたが、現代では「よく知らない、イメージがわからない」(2015年度実施「生活者アンケート」)という団体であり、このままでは、将来にわたって使命を果たしつづけることが困難となり、存立の危機と言わざるを得ません。また、財政的にも課題がより大きくなるものと考えます。2014年度、日本YMCA同盟はこれを一つのチャレ

ンジと捉え、「YMCAブランドの再生」を求めて日本YMCA同盟中期計画(2014-2016年度)を始動させました。2014年から3年間、YMCA本来の宝を今一度発見し、これからの時代において価値となる「YMCAとは」を考え抜き、コンセプトに仕立て直すことに取り組んできました。その成果として、2016年6月の同盟協議会においてYMCAブランドの土台となる「**ブランドコンセプト**」を発表するに至りましたことは、大きな一歩でありました。

YMCAのチャレンジ

YMCAブランドコンセプト 私たち日本のYMCAは、

バリュー	したい何かがみつき、誰かとつながる。 私ができる、かけがえのない場所。 を提供し、
ビジョン	互いを認め合い、高め合う「 ポジティブネット* 」のある 豊かな社会を創る。 ことを目標とする、
パーソナリティ	心をひらき、わかち合う。 前向きで、まわりを惹きつける魅力を持つ。 団体です。

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会の中で、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。(社会保障の)セーフティネットに代わる概念として、ブランドコンセプトに合わせてYMCAが新たに創造したことば。

ブランドスローガンとロゴ

さらに、この土台に基づいて、

ブランドスローガン
みつかる。つながる。よくなっていく。

を掲げ、ロゴマークを刷新いたしました。新しいロゴは、伝統的なYMCAスピリッツに基づき、日本YMCA基本原則が謳う「平和」をめざし、未来へ羽ばたいていこうとする日本のYMCAを象徴するものです。

さらなる協力・連帯を目指して

2017年度は、このブランドコンセプトに基づいて、もう一度YMCAの事業や運動を見直し、各YMCAが協力・連帯する躍進の時です。これまでの成果に基づいて、従来の「日本YMCA同盟中期計画」を改め、オールジャパンYMCAのさらなる協力・連帯を目指して、「日本YMCA中期計画」といたしました。

「**日本YMCA中期計画2020**」は、ユースが主体となるYMCA運動を再構築し、その事業の質を高め、人びとからの共感、支援・寄附、賛同する会員の増加を目指すものです。しかし、それは単に事業成績としての目標ではなく、「ポジティブネット」の実現の指標の一つであると考えます。

「神の国の拡張」としての ポジティブネット

「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることは、パリ標準*において謳われたYMCAのミッション「神の国の拡張」

につながるものです。イエスは、

神の国は、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る(マルコ4:31-32)

と言われました。わたしたちはYMCAから「ポジティブネット」が世界に広がっていくビジョンを共有し、この空の鳥が集い、互いに寄り添って巣を作るように、人びとを惹きつけ、そこにかけがえのない場所を見出すことを目指していきます。

ユース育成のビジョンこそが

「葉の陰の巣」は、こどもとユースを中心にすべての人が安心して育まれていく場所の象徴です。YMCAは、ユース自ら社会の課題をみつめ、自己と社会の変革のためのアクションに向かっていく場となることを目指しています。イエスによって示された「神の国」に導かれる総合的なユース育成のビジョンこそ、YMCAのブランディングを推進する力です。

このブランディングをさらに推進し、「ポジティブネット」の創造と拡張を目指し、
2017年度からの4年間の中期計画を策定いたしました。
ここに、日本のYMCAに連なる人びとに参画と協力を呼びかけます。

※ "Paris Basis" は現在日本YMCA同盟では「パリ基準」と日本語に訳されているが、ここでは現在の「パリ基準」の日本語訳と、それ以前の訳を区別して「パリ標準」としている。"The extension of his Kingdom amongst young men" は、「パリ基準」では「イエス・キリストの精神が広く青年の間に活かされる」と意訳がなされているが、「パリ標準」では「青年の間に神の国を拡張する」と直訳されている。

I. 基本方針

日本のYMCAは、以下のことを進めていきます。

1 ブランディングを推進し、ミッションを明確にする

社会との約束であるブランドコンセプトに基づいて、YMCA全事業の見直しを進め、その価値を高める。YMCAの姿が明確に伝わることで、社会から共感と信頼を得る。

YMCAのキリスト教使命（ミッション）を明確にする。

2 全国的な広報戦略を策定する

広報戦略を立案し、恒常的かつ機動的にスケールメリットを生かして、社会に発信ができる体制と体質を作る。

社会に貢献する働きを明確にすることによって、賛同や寄附を得る組織風土を確立する。

3 リーダーシップ研修の充実を図り、強化する

次世代の日本YMCA運動のリーダーシップ像を、スタッフ、ボランティア、ユースリーダーにおいて明らかにする。全国で行うすべての研修を捉え直し、カリキュラムを整え体系化する。

4 YMCAマネジメントを強化し、確立する

すべてのYMCAの発展に資するよう、マネジメントの強化を徹底して図り、システムの確立を目指す。全国的な視野で事業強化を推進して財政基盤を強固にすると共に、コンプライアンスを遵守する組織となる。

5 日本YMCA運動を組織変革する

日本YMCA運動としての一致と協力、将来にわたる推進のため、組織構造を変革する。

日本YMCA同盟は中期計画推進機能をより「見える化」し、新たにブランド・マネジメント機能を確立する。

6 “ポジティブネット” 実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する

“ポジティブネットのある豊かな社会”を創造することを決意し、働きを通して社会に示し続けていく。グローバルな基盤を活かしてユースが自ら考え行動するネットワークを広げ、ユースエンパワーメントを推進する。

II. 具体的な展開策

1 ブランディングを推進し、ミッションを明確にする

日本YMCA同盟

- 2017年6月に、新しいロゴ・スローガンを発表する。スタッフ、ユースリーダー、会員、メンバー等の内外関係者に向けたブランドブックを作成する。
- 「ブランディング推進室」を設け、ブランディング及びYMCA運動・事業の強化発展に資する機能を推進する。
- キリスト教使命・基盤（ミッション）をブランドコンセプトとの関連性において捉え直し、ミッションをわかりやすく解説したブックレットを作成する。

加盟YMCA

左記2.「ブランディング推進室」に連動し、

- 2017年10月より順次、ブランドガイドラインに則って統一したブランドイメージを発信する。
- ブランドコンセプトに基づいて、全事業・活動の検証を行い、その価値を磨き高める。
- ブランドブックの活用を通して、内外にブランドイメージの浸透を図る。

左記3.のブックレットを活用し、

- ブランドの基盤となるミッションの再確認と徹底を図る。

2 全国的な広報戦略を策定する

日本YMCA同盟

- 加盟YMCAスタッフから構成される「広報戦略タスクチーム」を新たに設け、ブランドコンセプトを浸透させる企画・広報を立案する。
- 全国のニュース・情報・各種データをタイムリーに集積、発信する仕組みを構築する。
- 日本のYMCAとして、意見表明・提言活動（アドボカシー）を効果的に行う。
- 募金/ファンドレイズに関する、全国で共有できる仕組みや研修を整える。

加盟YMCA

- 効果的な広報のありかたを研究し、発信できる体制と体質を作る。
- 募金/ファンドレイズを実践し、賛同や寄附を得る組織となる。

3 リーダーシップ研修の充実を図り、強化する

日本YMCA同盟

1. スタッフ、ボランティア、ユースリーダー等の研修プログラムを、日本YMCA研究所においてブランドコンセプトに照らし合わせて体系化し、カリキュラムを整える。
2. 増加する専門職スタッフがYMCA運動の担い手となるための研修を強化し、カリキュラムを構築する。
3. 加盟YMCA間の人事協力・交流（短期・長期）のための環境や支援を整え、外部の専門的NPO等との交流の可能性も探る。
4. 調査研究、研修、発信を目的とする日本YMCA研究所機能を高める。

加盟YMCA

1. 就労環境（働く環境）の改善に努め、多様なスタッフの採用・確保を進める。
2. 社会の課題に応えるスタッフを養成するために、研修を行う。
3. 各種研修への派遣、加盟YMCA間の人事協力・交流を積極的に進める。

4 YMCAマネジメントを強化し、確立する

日本YMCA同盟

1. 「全国YMCAコンサルテーション」を実施する。
2. 加盟YMCAの経営基礎データを分析し、財政危機の回避のための助言を行う。さらに会員数、寄附件数等、YMCAの健全運営の指標化を進める。
3. YMCAのマネジメント強化・合理化のためのシステムを検討し、全国規模で確立していく。
4. 事業の全体運営の統括機能を、戦略会議、各事業担当者会と連動して強化する。
5. 法務機能を強化し、加盟YMCAのコンプライアンス遵守をサポートする。

加盟YMCA

1. 新たにマネジメントの項目を追加した「YMCAガバナンス・マネジメントチェックリスト」を用いて、セルフチェックを実施する。
2. 戦略会議、各事業担当者会と連動して、財政基盤となる事業を強化する。

5 日本YMCA運動を組織変革する

日本YMCA同盟

1. 日本YMCA運動の組織構造を変革する。エリアで総主事・スタッフ不在のYMCAを含めて統括する広域化、事業毎での全体運営戦略化、学生YMCAの地域化など多角的に検討する。
2. 中期計画推進委員会を設置し、タスク毎に加盟YMCAスタッフ・レイパーソン、専門家を配置し、組織とPDCAサイクルの「見える化」を図る。
3. 加盟退除ガイドラインを適正に運用する。

加盟YMCA

1. ブランドコンセプトを軸に将来のグランドデザインを構築する。
2. 近隣YMCAとの協力、事業の全国協働を進める。また、地域における学生YMCA、ワイズメンズクラブとの協働を図る。

6 “ポジティブネット” 実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する

日本YMCA同盟・加盟YMCA

1. 全事業をブランド体系化し、価値のありようを内外に提示し、浸透を図る。
ポジティブネットの実現の姿（具体的なイメージ）を、働きを通して社会に示し続けていく。また新たにフラッグシップ（パイオニア）となる事業/活動を開発し、展開する。
2. 多様な背景をもつユースが中心となって、YMCAの価値を具現化し、共有する。

3. グローバルネットワークを生かし、ユース世代に共に生きる原体験となる機会をさらに提供する。ユース自ら社会の課題をみつけ、自己と社会の変革のためのアクションに参画できる道筋を整える。
4. 総合的なユース育成のビジョンを世界、日本、地域（都市YMCA・学生YMCA）で確立し、ユースエンパワーメントの第一人者となる。
5. 日本YMCA同盟が中心となり、全国各地区でのエリアセーフティの仕組みを整え、国内外の災害対策支援機能も他団体と連携し強化を図る。

日本YMCA同盟中期計画策定委員会

中道基夫（委員長）
黄 崇子
岩坂二規
神崎清一
末岡祥弘
田口 努
塩澤達俊
菅谷 淳
横山由利亜（事務局）

2017年度日本YMCA同盟 事業方針・計画

(年間聖句) 神の国は、からし種のようなものである。

土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、

蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、

葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。

—マルコによる福音書4章31-32節

基本方針

「日本YMCA中期計画2020（2017-2020年度）」の初年度として、オールジャパンYMCAの更なる改革の方向性を踏まえ、中期計画推進を着実に実行できる同盟事

務局体制を整えていく。そのために、これまでの業務を継承しつつ見直しと再編成を暫時すすめる。

1 ブランディングを推進し、ミッションを明確にする

- 1) 「ブランディング推進室」の設置と加盟YMCAのブランディング推進支援
- 2) ロゴ・スローガンの発表と展開
- 3) ブランドコンセプトに基づいた事業・活動の検証
- 4) ブランドブックの作成

2 全国的な広報戦略を策定する

- 1) ブランディング推進に合わせた広報の研究とビジュアル化推進
- 2) アドボカシー（社会に対する意見表明機能）のプロセスの整理と共有
- 3) 通常広報の強化（機関誌THE YMCA・Y-Information等）
- 4) 寄附・募金の積極的な推進

3 リーダーシップ研修の充実を図り、強化する

- 1) 日本YMCA研究所におけるカリキュラムの整備と体系化
- 2) 専門職管理者研修の強化と新人スタッフ研修の

企画立案

- 3) 就労環境整備に関する情報収集と共有
- 4) 全国YMCAの強化の観点から、人事協力・交流の支援と促進

4 YMCAマネジメントを強化し、確立する

- 1) 経営基礎データを集積と分析、危機回避のための助言
- 2) 運営に課題のあるYMCA（総主事・スタッフレスYMCA）の対応
- 3) 戦略会議と共同して事業強化目標の達成
- 4) 法務機能の強化と加盟YMCAのコンプライアンス遵守サポート

5 日本YMCA運動を組織変革する

- 1) 日本YMCAのガバナンス構造の多角的な検討に着手
- 2) 同盟機能の見直しを図り、中期計画推進に連動した事務局体制を整備
- 3) ブランド・マネジメント機能（システム）の整備
- 4) 加盟退除ガイドラインの適正な運用

6 “ポジティブネット”実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する

- 1) 全事業のブランド体系化と“ポジティブネット”に関するストーリー収集・発信
- 2) 国内外のYMCAと協働しての、アジア・太平洋地域の平和づくり
- 3) チェンジエージェント・地球市民育成プロジェクトの強化
- 4) エリアセーフティの仕組みを整え、災害対策支援機能を他団体と連携し強化

7 同盟事務局機能ならびに東山荘の運営強化

- 1) 四ツ谷・東山荘共に業務の見直しと業務の再編
- 2) 東山荘の安定的運営のための利用者確保と地域協働推進
- 3) 学生YMCA強化・ワイズメンズクラブ・FCSCとの協働推進
- 4) 主事退職金中央基金・職員年金基金の運用支援と制度検討

日本YMCA同盟2017年組織図

